

学ぼう！シリーズ⑬

## 漢方②

## 『新型コロナナでの漢方の役割』

内科医師 菅野 隆彦



え方（改訂第2版）』が掲載されました（2020/4/22）。

幕末の名医と言われた浅田宗伯先生の弟子である木村博昭先生が、約百年前にパンデミックになったスペインインフルエンザの時に、柴葛解肌湯（葛根湯＋小柴胡湯加桔梗石膏）が近似処方）を使用して、死亡例がなかったという逸話があります。

現在の新型コロナウイルス感染症（以下、コロナと略します）蔓延に対して、約2年前、コロナワクチンも治療薬もほぼない時に、日本感染症学会のホームページでも小川恵子先生（金沢大学附属病院漢方医学科）から『COVID-19感染症に対する漢方治療の考

	感染者数(人)	死亡者数(人)
スペインインフルエンザ (1918-1919 日本 内務省 統計)	約 23,000,000	約 380,000
新型コロナウイルス (2020/5/9-2022/3/19 厚生省 集計)	6,049,116	27,037

実は、漢方薬はもともと感染症のパンデミック（世界的大流行）を抑え込む薬として、およそ一八〇〇年前に生み出された薬です。つまり、一八〇〇年もの使用実績があり、その間に何度も、人類存亡の危機を救ってきました。さらに、意外に知られていませんが、漢方薬の多くには速効性があります。ですから、短期間で進行する急性の感染症に対しても、十分に対応可能なのです。

今回、井齋偉矢先生の『新型コロナナと速効！漢方』から、いくつかの漢方をピックアップしたいと思います。

## コロナの予防

◎補中益気湯  
（ほちゅうえつきとう）

実は、漢方を日常的に用いている先生方は、補中益気湯を飲んでいきます。（私も、ダイアモンドプリンセスでの感染時からずっと飲んでいきます。コロナ感染者と対峙することもありますが、今のところ感染していません。因みに毎年冬には、常時飲んでるので、今までインフルエンザに罹患したこともないです。）

また、コロナ検査陽性で無症状の場合にも補中益気湯がいいようです。

補中益気湯は、免疫力を高める作用があるので、病気に対する抵抗力を高めてくれます。補中益気湯は、病原体の入り口となる消化管の粘膜に配備された樹状細胞を活性化し、そのセンサーの感度を高める働きがあります。粘膜上の樹状細胞の働きが良くなれば、病原体の情報が正確にいち早く身体の免疫司令部に伝わり、敵を効率よく排除することが可能となります。